

棚尾地区まちづくり事業

平成 28 年 11 月 17 日（木）19 時～

棚尾公民館 3 階

## 第 5 6 回 棚尾の歴史を語る会 次第

### 1 前回までのテーマに関する参考意見

三栄座、笛の名手『老成おいなり三州』、棚尾の駐在所、棚尾の歩みなど

### 2 テーマ：棚尾の歩み 第 2 話 「明治時代前半の棚尾」

説明（磯貝国雄）

出席者による補足説明、感想など

### 3 連絡事項・情報交換など

### 4 次回日程

第 57 回棚尾の歴史を語る会 平成 29 年 1 月 26 日（木）午後 7 時から

テーマ：棚尾の歩み第 3 話「明治時代後半の棚尾」

## 「明治時代前半の棚尾」

### 1 要旨

#### 《棚尾小学校の開校》

明治6年(1873)に棚尾小学校が、妙福寺境内で創立した。当時は、現在の水屋の位置にあった校舎とお寺の庫裏が教室であった。

#### 《郵便局開業》

明治8年(1875)源氏の長田半十方で、棚尾郵便御用取扱所が開設された。この郵便御用取扱所は碧南における最初のもので、愛知県内でも12番目にできたものである。明治11年には郵便貯金の業務も開始するが、明治12年(1879)に大浜郵便局が新設され、棚尾郵便局は廃止となり移転した。

#### 《東浦、西山、東山の分村》

棚尾村は、江戸時代まで南組(本郷と称し、現在の棚尾区域)、中組(東浦、中山)、北組(東山、西山)に分かれていた。

#### ①東浦の分村

明治9年(1876)に県の地租改正係より「飛地組替をせよ」との通知あり、棚尾村のうち中組の東浦(字北霞浦・字鴻浦・字山ノ上道西・字山ノ上道東・字中霞浦・字南霞浦の半分)255戸が平七村へ移った。又、逆に平七村のうち字雨池と字山畑(中山附近)の土地が棚尾へ入った。

#### ②北棚尾の分村

北組(東山、西山)の開拓は元禄期とされ、棚尾村新田と呼ばれ、秋葉社(東山)と御鋏社(西山)があった。ただし、氏神は八柱神社であった。

この北組は、明治16年(1883)に北棚尾村として分村独立した。戸数は177戸であった。その後、明治22年には北大浜村と合併し、明治25年(1892)に町名を新川町と改めた。

## 2 村制の沿革

西暦	和暦	日本の出来事	棚尾の村制など
1867	慶応3年	徳川慶喜は朝廷に大政奉還する。 王政復古の号令が出る。	
1868	慶応4年 明治元年	鳥羽伏見の戦が起こる。 五か条の御誓文が出される。 江戸が東京と改まる。	政府は徳川家を駿府に封じたため、沼津藩は上総国市原郡菊間村へ転封となる。 佐野良契は妙福寺で寺子屋を開く。
1869	明治2年	版籍奉還が行われる。 天皇が東京に移る。	菊間藩も版籍奉還を願い出る。続いて藩主を藩知事に任命する。 大浜陣屋は菊間藩大浜出張所と改称する。
1870	明治3年	神仏分離令。 平民にも姓を付ける布告。	菊間藩のこの地方の長官として少参事服部純が着任する。 11.15 少参事より称名寺説問、光輪寺賢立は教諭使に任命される。 12.5 より教諭使は管内の村々を廻り、明治政府の教えを諭す。
1871	明治4年	神社の社格を定める。 戸籍法制定。 宗門人別改帳を廃止。 廃藩置県。	3.9 大浜（鷲塚）騒動が起こり、菊間藩士藤岡薫はこの騒動により鷲塚において命を落とす。 7.14 廃藩置県の令により、菊間藩は菊間県となり、藩知事は県知事となる。 11.15 三河と知多の諸県を廃合して額田県とし、県庁を岡崎に置く。
1872	明治5年	戸籍法が施行となる。 全国の人口 3311 万人 地券交付を布達	棚尾郷学校が妙福寺境内に開かれる。 棚尾村は額田県第2大区棚尾村と

		<p>学制制定(全国を8大区とし、1大区を32中学区、1中学区を210小学区に分けて学校を設置)</p> <p>太陰暦を廃止し、太陽暦を採用する。</p>	<p>なる。4月、庄屋・名主制度を廃して戸長・副戸長を設ける。</p> <p>額田県を廃止して愛知県となり、第9大区1小区に編入され、棚尾村など7か村を管轄した。小区扱所を大浜(字天王)に設けた。小区に戸長役場を置いた。</p> <p>八王子宮は村社となり八柱神社と改称する。</p>
1873	明治6年	<p>徴兵令が制定される。</p> <p>地租改正が行われる。</p>	<p>棚尾郷学校が第54番小学棚尾学校と改称され、棚尾小学校が創立する。</p>
1874	明治7年		<p>この頃役場は会所と呼ばれていた。</p>
1875	明治8年	<p>平民にも姓を付ける布告が再度通達された。</p> <p>小学校令を満6歳より満14歳までと制定。</p>	<p>天王の石川市郎は棚尾村の長田半十方で棚尾郵便御用取扱所を創設する。</p>
1876	明治9年		<p>棚尾郵便御用取扱所は棚尾郵便局と改称する。</p> <p>東浦255戸が平七村に入り、字雨池が棚尾に入る。</p> <p>大小区の制を廃し、碧海郡は第9区となり、斎藤量平が区長に任命された。</p>
1877	明治10年	<p>西南戦争が起こる。</p> <p>日本の総人口:3,462万人</p>	<p>8.21~11.30 東京上野公園で第1回内国勸業博覧会が開催され、永坂奎兵衛は三州瓦を出品する。出品者1万6千人余、入場者45万人の盛況。</p>
1878	明治11年	<p>郡区町村編成法制定。</p>	<p>棚尾郵便局で郵便貯金の業務を開始する。</p>

			12.20 郡区町村編制法公布により 碧海郡（知立村に郡役所）となる。
1879	明治 12 年	各府県会が開催される。	
1880	明治 13 年		2 月各村に戸長役場を設ける。
1881	明治 14 年	小学校教則綱領が定め られ、小学校を初等 3 年、中等 3 年、高等科 2 年の 3 科に区分する。	6.6 藤井達吉が生れる。
1882	明治 15 年		棚尾村の種痘医に杉村修平、堅木原 惇二がなる。 棚尾学校が第 55 番小学に改称され る。
1883	明治 16 年		東山と西山（177 戸）が分離して北 棚尾村が生れる。
1884	明治 17 年	戸長の公選制が廃止さ れ、県令が任命するこ とになった。	八柱神社が郷社に昇格する。 戸長役場は廃止され、組戸長役場 になり、棚尾村は第 8 組戸長役場と なる。
1885	明治 18 年	維新以来の太政官制が 廃止され、内閣制度が発 足した。	組戸長役場を村戸長役場と改称す る。
1886	明治 19 年	小学校令が公布され、尋 常小 4 年、高等小 4 年と なり、尋常科 4 年が義務 教育となる。	棚尾村の人口は男 2429 人、女 2567 人 合計 4996 人 棚尾小学校が第 8 学区尋常小学棚 尾学校と改称される。
1887	明治 20 年		

### 3 神社と寺院

#### (1) 八柱神社

ア 明治 5 年に八王子社は村社に指定され、これを機会に八柱神社と改称した。

イ 郷社への昇格

大浜上の宮熊野神社は既に郷社に指定されていたが八柱神社は村社であったので、郷社への社格昇進を願い、明治 11 年には、本殿の葺き替えを行い、明治 17 年に社格昇進願を提出した。

《社格昇進願》

三河国碧海郡棚尾村 村社 式外 八柱神社

右神社之義者 當郡中人民崇敬之神社ニ有之候処 先般社格御選定之砌リ 隣村大濱村熊野神社ヲ以郷社ニ被定 本村ニハ村社ニ被例候ニ付氏子ノ輩一同深ク歎息仕候ニ付テハ 右社格境内社殿等別紙ノ通りニテ 郷社位地相備 氏子戸数千百有余有之候義ニ付 今回郷社ニ被例度奉願上候 最モ永続資本トシテ氏子有志ヨリ 金千円余寄附仕 永代祭 祀修繕費用ニ可仕候□□ 願之趣御聞届被成下候様仕度 別紙明細書絵図面ホ相添 氏子惣代初連署 此段奉願上候也

明治 17 年 1 月 23 日

右社 氏子惣代

永坂空平<sup>印</sup> 鈴木善兵衛<sup>印</sup> 長田半十<sup>印</sup> 榊原七兵衛<sup>印</sup>  
榊原清八<sup>印</sup> 石河久右衛門<sup>印</sup> 斎藤茂七<sup>印</sup> 斎藤甚六<sup>印</sup>  
榊原由右衛門<sup>印</sup> 生田庄三郎<sup>印</sup> 生田十平<sup>印</sup>

兼社守 榊原小三郎<sup>印</sup>

請持神官 祠掌 神谷善六<sup>印</sup> 祠官 米津佐治兵衛<sup>印</sup>

愛知県令 国貞 廉平 殿

前書之通 願出候条相違無之候也 右村戸長 名倉和造<sup>印</sup>

明治 17 年 1 月 23 日

碧海郡長 市川一貫<sup>印</sup>

これに対し次のように許可の回答があった。

八柱神社郷社格之義 聞届候事

但蓄積金ハ明細帳ニ記載シ 6 年 249 号公布祠堂金ニ準シ処分可致義ニ心得ベシ

明治 17 年 2 月 28 日

愛知県令 国貞 廉平<sup>印</sup>

尚、同年 8 月には、大濱下の宮熊野大神社も郷社に昇格している。この結果、碧



南市の郷社は3社になり、以後、変更はなかった。

(2) その他の神社

明治3年(1870)の神社取調書上帳には次の神社が載っている。

ア 八王子社(現在の八柱神社)

末社 豊年社(現在の宮比社)、 秋葉社(現在の秋葉社)

イ 若宮社 字上屋敷 若宮町に在って、現在は八柱神社に合祀。

ウ 神明社 字堀切 中山神明社に合祀。

エ 秋葉社 字北道通り 妙福寺境内にあった。

オ 春日社 字善明坂 現在の棚尾小学校プールの位置にあった。

カ 琴平社 字加須 現在の琴平社。

(3) 光輪寺と大浜騒動(鷲塚騒動ともいう)

明治政府の神仏分離の政策は、廃仏毀釈の運動となって全国に広まっていった。明治3年に大浜陣屋の少参事になった服部純は天排(歴代天皇)、日拝(天照大神)を強要させ、寺院の統廃合を進めようとした。

又、管内の民衆に新政の内容を徹底させるために、明治3年11月5日に光輪寺賢立と称名寺説問の二人を教諭使に任命した。その教諭内容は役所から書き出された次の三か条をやさしく教えさとすことにあった。すなわち、

一、過去ノ事ヲ計リ以来ノ法ヲ立ツル事

二、貧民ヲ救ヒ衰村ヲ興ス事

三、子孫ヲ教エ家名永続ノ法ヲ組立ツル事

そして、「村々へ申し渡すべき覚え」「叡慮之趣申諭覚」「村法改正之覚」等を人民に説諭し、私意をまじえず、むつかしいところは譬諭をまじえて教示しようとした。

教諭使の村々巡回は明治3年12月5日から始まって、翌年2月3日に終わっている。わずか三ヶ月の短期間に大浜出張所管内全域を28回に分けて教諭している。これをみても服部少参事が政治改革を下々のものまで、急ぎ徹底させようとしていたかが分かる。

維新の変動の中で、仏教、特に浄土真宗を守ろうとする東本願寺の僧で結成されていた三河護法会の有志は、菊間藩の政策が他の藩に及ぶことを恐れた。そこで藩の方針に賛成した西方寺や光輪寺を説得し、陣屋の役人と話し合うため行動を起こした。

明治4年3月(1871)鷲塚村において、菊間藩大浜出張所の役人と、真宗の僧侶や農民との間に激しい争いが起きた。これが菊間藩事件とか、大浜騒動或いは鷲塚騒動

と呼ばれ、明治維新に発生した宗教上の事件として全国的にも知られている。

#### 4 棚尾小学校の開校

政府は小学校を設立すべきことを督励し、愛知県においても明治6年(1873)に多くの学校が設立された。

棚尾小学校も、この年に妙福寺境内に創立した。当時の棚尾小学校は独立した校舎を持たず、児童が庫裏と現在の水屋の位置にあった別棟に分かれて授業を受けた。子供たちは庫裏を「古学校」、別棟を「本学校」と呼んでいた。

就学年数は学校創立の頃は下等4年、上等4年であったが、明治14年には初等3年、中等3年、高等2年となり、やがて明治19年には尋常小4年、高等小4年となっていく。

#### 5 棚尾郵便局の開設

明治8年(1875)1月7日、県令第1号通達により、天王の石川市郎が棚尾村50番戸(現在の源氏町)長田半十方に、棚尾郵便御用取扱所を新設し、通常郵便事務を開始した。これが碧南における郵便の最初である。この取扱所は愛知県で12番目にできたものである。

同年11月2日には内国郵便為替の取扱いを開始した。明治9年5月には棚尾郵便局と改称し、同11年(1878)9月21日に郵便・貯金事務を開始した。しかるに、大浜町に郵便局設置の請願運動が起こり、翌12年(1879)4月16日より大浜町17番戸(現在の羽根町)藤岡由兵衛方に、大浜郵便局を開設し、棚尾郵便局も合併移転した。

#### 5 分村

棚尾村は、江戸時代まで南組(本郷と称し、現在の棚尾区域)、中組(東浦、中山)、北組(東山、西山)に分かれていた。

##### (1) 東浦と雨池の交換

明治9年(1876)に県の地租改正係より「飛地組替をせよ」との通知あり、棚尾村のうち中組の東浦(字北霞浦・字鴻浦・字山ノ上道西・字山ノ上道東・字中霞浦・字南霞浦の半分)255戸が平七村へ移った。又、逆に平七村のうち字雨池と字山畑(中山附近)の土地が棚尾へ入った。

飛地交換は耕地の交換が通常であるのに、「人家共」の土地を交換して平七に組入



れたのは、東浦が平七と接壤地であり、棚尾本郷より離れていることによるものであろう。

(2) 北棚尾村の分村

北組（東山、西山）の開拓は元禄期とされ、棚尾村新田と呼ばれ、秋葉社（東山）と御鋤社（西山）があった。ただし、氏神は八柱神社であった。

この北組は、明治16年（1883）に北棚尾村として分村独立した。戸数は177戸であった。その後、明治22年には北大浜村と合併し、明治25年（1892）に町名を新川町と改めた。

北棚尾村の分村はすんなりと決った。これは飛地で、本郷から遠かったことが大きかったと思われる。

6 地名

明治時代になり、個人が土地を所有し、自由に売買できるようになった。それと同時に、江戸時代までは年貢で納めていたのが、地価税を金納で納めるようになった。そのため、土地を確実に管理する必要があり、字名の整理が行われた。

棚尾の江戸時代までの通称であった旧字名は、次のように新字名として整理された。尚、この字名は昭和48年（1973）に新町名が設定されるまで続いた。

新字名	旧字名	面積	筆数
源氏	源氏、浜ノ上	4町5反1畝8歩	68筆
加須	藪後、大ノ内、小谷、加須	3町0反1畝16歩	62筆
日影	後屋敷	1町7反7畝15歩	43筆
志貴屋敷	屋敷、後片坂	1町9反1畝15歩	44筆
中道	前屋敷	1町9反1畝13歩	53筆
前畑	前畑	0町6反6畝14歩	26筆
西山	畳屋敷、西山前	3町9反3畝3歩	92筆
森ノ崎	森、八王子、光照寺、池端	2町1反0畝10歩	50筆
森下	森下、西浦	3町4反7畝23歩	44筆
濱田	濱田	1町9反0畝16歩	26筆
雨池	大堤東、雨池	8町9反0畝29歩	92筆
亀ヶ下	亀ヶ下	3町7反3畝2歩	49筆

上屋敷	若宮、上屋敷	2町8反3畝0歩	62筆
田之崎	池ノ上、田ノ崎、久保見	2町6反3畝25歩	54筆
中久根	亀ヶ上、東山、伏塚	2町3反5畝0歩	54筆
東川	折戸、南折戸、西屋敷	3町0反1畝12歩	63筆
後畑	郷蔵後、後畑	0町8反3畝13歩	25筆
畑中	北折戸、御堂前、折戸藪下、郷蔵西	1町3反7畝8歩	41筆
堀切	堀切前、堀切、堀切下	2町9反6畝22歩	61筆
後汐田	汐田、上國、後田、井道場	5町2反0畝9歩	77筆
奥汐田	江奥、汐田、嶋畑道、善明坂下、汐田堤	5町2反6畝6歩	66筆
善明坂	善明坂、東善明坂	3町9反8畝20歩	81筆
春日東	乗越、春日、乗越嶋、乗越橋	4町3反8畝4歩	62筆
沢渡	四反田、沢渡、七日旱田	5町2反3畝2歩	76筆
作塚	溜内、作塚溜	1町4反4畝21歩	26筆
小栗山	東浦後、小栗山	6町7反3畝24歩	102筆

## 7 日本史に登場する人物の文化財

現在、棚尾に残っている明治維新に功績のあった人物の文化財には次のものがある。

### (1) 杉村修平碑に残る東久世通禧（ひがしくぜ みちとみ）

杉村修平懿文徳（いぶんとく）碑の篆額を東久世通禧が書いている。

天保4年～大正元年(1833～1912) 幕末尊王攘夷派公卿の1人として重きをなし、文久2年(1862)国事御用係、翌'63年国事参政となったが、同年8月18日の政変で三条実美らの公卿たちとともに長州藩に逃れた（七卿落ち）。慶応3年王政復古で帰洛し、参与となり、ついで外国事務総督・外国官副知事などを歴任した。さらに兵庫鎮台・兵庫裁判所総督となり、議定職についた。のち元老院議官、枢密顧問官となり、貴族院副議長・枢密院副議長もつとめた。

### (2) 光輪寺に残る山岡鉄舟の扁額

市内に三つの名茶席があり、その一つと言われた光輪寺蔵六庵に山岡鉄舟筆「如

亀蔵六」の扁額が残る。

天保7年～明治21年（1836～1888） 幕臣。江戸城無血開城で日本を救った勝海舟と西郷隆盛の会談に先立ち、隆盛に会いお膳立てをした功労者として知られ、勝海舟、高橋泥舟と共に、幕府を助けた「三舟」の一人といわれる。